農業委員会だより

編集　農業委員会広報部会

第79号

新体制スタート

町長から任命された農業委員14名と、農業委員会から委嘱された農地利用最適化推進委員7名の皆さんに抱負をうかがいました。

農業委員

●農業委員会長
佐藤　次雄（沓野下一・二期目）

この度農業委員会会長に指名されました佐藤です。思いもよらず大任を仰せつかり恐縮しております。私自身高齢の為いつまで農業ができるかわかりませんが、皆様のご協力をいただき務めていきたいと思っています。

農業の現状は後継者不足に表れているように大変な状況に置かれています。

少しでも皆様の農作業がやりやすいようにお役に立てればと思います。よろしくお願いいたします。

●農業委員会長代理
福井　敏彦（乗廻・二期目）

コロナ過で活動が制限された中、少しずつではありますが仕事の大事さがわかってきました。地域農業の振興のため、微力ではありますが、地域の皆さま、行政の方とコミュニケーションをとりながら、情報を交換、共有し、農地を遊ばせないように、間に入ったり、新規就農の方、農業移住の方がやる気のでる農業環境を作っていければと思っています。皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

●農地部会長
湯本　浩（和田・二期目）

担い手の高齢化等により、耕作されなくなった畑を目にするようになりました。五年後、十年後の光景が大変心配されます。この美しい風景がいつまでも続くように、農業委員の役割である農地の利用集積、荒廃地の解消、担い手確保等を農家の皆さまのご協力のもと全力で取り組んでいきたいと思います。

●農地副部会長
小古井　英雄（佐野上・二期目）

前任者の体調不良により一年間の残期を農地利用最適化委員として務めさせていただきました。その会議に出席して、今まで自分が持っていた農業委員会に対し違和感や疑問に思うことが何度かありました。二期目にあたり違和感や疑問を解決し、少しでも良い結果につなげられるよう努力したいと思います。

●農政部会長
下田　健志（伊沢・二期目）

今年度より農業委員の一員となり、責務の重大さを痛感しています。「農業所得の向上」「魅力ある農業経営」により担い手、後継者不足の解消が目標ですが、まだまだ解決していかなければいけない問題があると思っています。農家が安心して今後、農業を続けて行けるように、農業委員として共に考えて行動していきたいと思いますので、皆様のご指導、ご協力をよろしくお願いいたします。

●農政副部会長
望月　美知子（下須賀川・三期目）

今年は元旦に石川県で大地震があり、山ノ内町でも震度5で大変な年明けとなりました。そして今でも各地で地震が起きていて、地球が活動期に入っていると数年の温暖化に伴い農業を取り巻く環境は厳しくなっているように思われます。そのような中でも田・畑を守り耕作されている農業従事者また新規就農者の方々の力になり、行政と地域を繋ぐ役目を努めていきたいと思います。

●農業者年金加入推進部長
齊藤　蝶次郎（横倉三の四・二期目）

横倉では担い手不足で遊休農地が増えている現状ですが、若い担い手も徐々に増えてきまして農業が維持できる事と期待しています。有害鳥獣対策についても積極的に取り組みたいと思います。農地等の問題、要望がありましたら申し付けてください。先輩農家から若手農家まで楽しく夢のある農業が出来るように盛り上げていければ良いと思います。

●広報部会長
小池　俊治（前坂・二期目）

現在担当している地域は山間部が中心で、耕作者の高齢化が進み、荒廃地が多く見られるのが現状です。電柵設置が出来ない地形のため、鳥獣による被害が特に目に余ります。鳥獣害は耕作者の意欲を損ね、それが遊休農荒廃地の増加に繋がり、ついには野生動物の棲家・隠れ家の温床となって耕作できる作物が限定されていく原因となります。南向きの水はけの良い優良農地を多くの方に耕作していただき、遊休荒廃地を少しでも減らしていけるよう、また、農家との懸け橋になれるよう努力してまいりますので、よろしくお願いします。

●広報副部会長
渡辺　輝子（宇木二・二期目）

農業従事者の高齢化、遊休農地の増加等、農業がかかえる問題は解消が進まない昨今ですが、若い担い手も少しずつ増え日々がんばっている姿に希望と力を頂いてます。今年度は国が定めた「地域計画」策定の一年です。十年後の町の農業・農地について皆さまと一緒に考えてまいります。米・野菜・果樹とそれぞれにふさわしい計画を策定し、現在従事している方、新規就農されている方のどちらも農地の有効活用が継続できるよう取り組みたいと思います。

●栗林　和仁（本郷一・一期目）

今年度より農業委員になりました本郷の栗林和仁です。実際にどのような活動に取り組んで行くのか？不安ではありますが、委員の方々にご指導を頂きながら勉強して行きたいと思います。現在、山ノ内町の農業の現状を少しずつ理解している途中ではありますが、その中で、新規就農者が増えるような魅力ある環境の整備に取り組んでいかなければと感じるようになりました。地域の皆様にも、ご指導ご協力を頂きながら頑張って行きたいと思います。よろしくお願いします。

●山本　和幸（菅一・一期目）

昨春、職場を定年退職し、りんご栽培に従事しています。晴耕雨読の生活は人間本来の生き方なんだなあと実感しています。

とかく農業は大変というイメージが付きまといますが、手をかければかけただけ良い成果が得られますので、農業、特に果樹栽培の魅力を発信しながら、地域の課題を少しでも改善していけるよう農業委員として微力ながら取り組んでいきたいと思います。皆様のご指導ご協力をよろしくお願いいたします。

●白鳥　金次（菅一・二期目）

町の農業は、基幹産業として脈々と受け継がれてきました。先人の方々の歩みを顧みて、今の時代をしっかりと見据え、明日に繋げていかなければならないと思っています。

少子高齢化の今日、新規就農者や後継者の方々と、これからの地域の農業について、話し合いをしていくなかで、地域住民の皆様にも、農村地域の景観維持確保の観点から、話し合いの輪に参加していただき、地域コミュニティーの活性化にも繋げていければと思っています。農業に利害関係を有しない者として、また町議会議員として、両立ち位置で精一杯努めてまいります。

●月岡　徳一（宇木二・一期目）

今年度から、農業委員を務めさせていただくことになりました。知識も経験もありませんが、皆様のご指導をいただきながら、荒廃農地の解消など委員としての責務を果たせるように努力してまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。

●小林　貴（下須賀川・一期目）

今期農業委員を務めさせて頂く事になりました須賀川の小林貴です。私は会社員をしておりまして家では少しの稲作をしている程度の農業しか知りませんが、最近では荒廃農地が増え、（自分自身もそうですが）農業従事者の高齢化も進み、後継者不足にもなってきていたりと色々と取り組んでいかなければならない事が多くあります。現状の改善に向けて微力ながら努めて参りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

最適化推進委員

●小坂　勇二（横倉二の三・一期目）

今年度から農地利用最適化推進委員を務めさせていただくことになりました。農業従事者の高齢化や後継者不足などにより、遊休農地の増加が懸念されている中で何をしていいかわからない状態ですが、農業委員の皆様と連携しながら、遊休荒廃農地の発生防止・解消に取り組んでまいりたいと考えています。地域の農業者の代表として、微力ですが農業振興に少しでもお役に立てればと思っていますので、ご指導とご協力を宜しくお願いいたします。

●湯本　幸作（立川・二期目）

農地利用最適化推進委員二期目となりました。一期目が終わり振り返ると、高齢者の増加、後継者の不足、耕作放棄地と大変厳しい状況下になっている事を痛感しました。今後、さらに農地の集積・集約化、遊休農地の発生防止、農地等の利用の最適化が必要となってきますが中々進まないのが現状です。地域の皆さまのご協力を頂きながら、一生懸命取り組んでいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

●冨澤　博文（薬師・一期目）

本年度より、農地利用最適化推進委員を務めさせていただきます冨澤です。何もわかりませんが、勉強させていただき、任期を全うできるように頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。

●山口　剛（金倉・二期目）

山ノ内町での果樹生産額はJA取り扱い額で50億円弱あるそうです。実質様々な販売が行なわれておりますのでさらに大きく上積みされると思われます。現在の収入を守りさらに5年、10年、15年後と展望できますように各地区ならではの農地利用、ベストミックスで出来ますように考えてまいります。皆さまのご協力お願いいたします。

●佐藤和彦（中村・一期目）

今年度より初めて農地利用最適化推進委員になりました。現在農業従事者の高齢化に伴う離農や突然の病気などから放任園・管理粗放園が拡大する事例が年々増えています。少しでも減らすためには、若い担い手が就農しやすい環境づくりが大切だと思います。委員として何をすべきかまだわからない状態ですが、地域の皆様のお役に立てるよう努力してまいりますので、ご指導ご協力をお願いいたします。

●関　正秀（宇木三・一期目）

本年度より、農地利用最適化推進委員を務めさせていただくことになりました。何もわからない状況ですが、皆様のご指導を頂きながら微力ではありますが農地の諸問題改善のため少しでもお役に立てるよう尽力していきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

●藤浦　忠広（本郷三・一期目）

この度、農地利用最適化推進委員の任を受けました藤浦です。農家の高齢化や後継者不足等により、農業者人口が減少する昨今、これまで利用してきた農地すべてを守っていくことが最適とは必ずしも言えない状況になっています。これまで地域の農村を守り受け継いでこられた先人たちに敬意を表しながらも、守るべき農地は守り、非効率な農地は諦める決断も必要なのではないでしょうか。地域にとって最適な農地利用とはいかなるものなのか、農家の皆さんと話し合いながらその解を求める3年間にしようと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

よろしくお願いします！

ご意見・ご感想をお寄せください

農業委員会事務局　TEL 33-1107
FAX 33-1104